

## 「試行錯誤する過程の重要性」

図画工作科顧問校長 飯田小学校 生熊 周



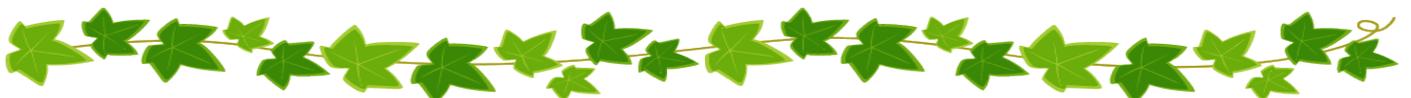
マルセル・ブロイヤー「曲げパイプのチェア B32」(リプロダクト品)

先日、自宅の一室を模様替えしました。といっても、かつて子供が使用していた部屋を、自室として活用しようと思ったのがきっかけでした。さて、いざ作業を始めてみると、思わぬことが…。今までの部屋ではしっかり馴染んでいた棚や調度品が、新しい部屋では、広さや設えが異なるせいなのか、デザインの統一感が保てず、半日試行錯誤するも、結局その日は、そのままになってしまいました。

ここで、私が好きなデザインについて少しだけお伝えしておきます。みなさんは、バウハウス(Bauhaus)を御存知でしょうか。かつてドイツに設立された美術建築学校です。無駄な装飾を廃して合理性を追求するデザインは斬新で、今もなお多くのファンを魅了しており、私もその一人です。その思想は、最近の家具メーカーでは、IKEA等のデザインにも息づいていると言われています。我が家の家具は、そんなこだわりの造りではないのですが、購入する際は「バウハウスの部屋」をねらっていたので、それなりに収まっていたはずなのです。しかし、いざそれらが異なる空間に置かれてみると、また違うデザインの側面を見せ始めます。やはり、思い描いていても、実際に試してみないと分からないことはあるものです。

子供たちが絵を描いたり、立体作品を作り上げたりする際、構想の段階から、幾度となく試行錯誤を繰り返します。その感性尺度は、人それぞれでしょうが、その行為の尊さは、できあがった作品ではなく、その過程に宿るのだと思います。昨今言われる「主体的・対話的で深い学び」が実現されている場面とは、まさに試行錯誤を繰り返して学習の見通しを持ったり、振り返ったりして、自身の変容を意識する場面でもあります。つまり、それは、アウトプットされた完成作品の中にあるのではなく、製作過程にあると言っても過言ではないでしょう。

何となく、部屋の片付けが進まないことの言い訳になってしまいました。





## 「作品を生かす」

図画工作科顧問校長 泉小学校 中谷 哲久

今年度の「子どもの市展」も、皆さんの御協力のおかげで、無事終えることができました。やはり、このように多くの作品が一斉に展示されると、迫力ある作品に変わりますね。今後も、いろいろな形でこのような展覧会が開くことができるといいなと思います。

さて、私自身も昨年一年間で、いろいろな展覧会に行ってきました。兵馬俑展、浮世絵展、久能山東照宮の竹灯り、ポケモンの骨格展、ゴッホ・アライヴなど、どれも見ごたえのあるものばかりでした。

さて、今回はこの展示について、自分が思ったことを述べたいと思います。皆さんの学校では、児童の作品をどのように展示をし、鑑賞等に生かしているのでしょうか。展示するからには、見栄えもよくしたいものですが、学級の数が多い学校では、展示場所を確保するだけでも苦労されていると思います。



「ゴッホ・アライヴ」の会場

そこで、展示にもデジタルの活用を考えてみました。前述した「ゴッホ・アライヴ」は、ゴッホの作品を、展示室に設置したいくつもの大スクリーンに、クラシック音楽とともに、代わる代わる映し出す形式の展覧会でした。観覧者は床に置いてあるビーズクッションに寝そべったり、好きな場所に座ったりしてゴッホの絵を楽しむことができます。

この展示の仕方を参考にして、子供たちの絵画の作品を音楽付きのスライドショーにしてみました。画像の背景を黒くすることで、絵が浮かび上がり、また、フェードインなどの画面の切り替え方を工夫することで、とても素敵な感じに仕上がりました。これを教室にある大型テレビやスクリーンに、自分たちの絵が次々と映し出されると、いつもとは違う雰囲気になり、じっと見入る姿が多くありました。「プロの作品みたい」とつぶやく子もいて、掲示してある作品とは、少し趣が変わった展示となりました。



パワーポイント上の作品

この他にも、工夫次第で、より効果的な方法があるかもしれません。デジタルとアナログを組み合わせ、子供たちがそれぞれの思いを込めて作り上げた作品に、魂を吹き込ませられるような展示の仕方を考えてみてください。

## 第3回図画工作科研修会(授業研)

### 3年「みんなの葉っぱびじゅつかん」

相生小学校 星 瑛理香 教諭

相生小では、「みんなの葉っぱびじゅつかん」の授業を参観しました。

造形的な見方・考え方をどう働かせるか、自分なりのイメージを膨らませる支援について話し合いました。



### 1年「おってたてたら」

河輪小学校 中村 有沙 教諭

河輪小では、教科書の工夫題材「おってたてたら」の授業を参観しました。

1枚の紙を様々な方法で折って立たせた形から、子供たちがいろいろな形を見つけて発想を広げていく場面を中心に発表が行われました。



### 6年「未来のわたし」

気田小学校 鈴木 まり子 教諭

気田小では、紙粘土で人物のポーズを作る「未来のわたし」の授業を参観しました。

アイデアスケッチをテレビに映してポーズの確認をすることで、腕や足の位置を確認しながら作る姿が見られました。



## 第55回浜松市子どもの市展

1月5日～1月11日に浜松市美術館にて子どもの市展が行われました。小学校が市展を行うのは3年ぶりでした。各校から集められた作品が美術館のフロアに一堂に展示されました。訪れた人々は一つ一つの作品を興味深く見ていました。多くの方々に子供たちの素晴らしい作品を見ていただく良い機会となりました。

